

## 日本海側から記録されたタカオチビゴミムシ

上野俊一・高野 勉

UÉNO, S.-I., & T. TAKANO: A Record of *Paragonotrechus paradoxus*  
(Coleoptera, Trechinae) from the Northern Side of  
Central Honshu, Japan

タカオチビゴミムシ *Paragonotrechus paradoxus* S. UÉNO は、ハバビロチビゴミムシ群に属する特異な種で、色素の消失、複眼の縮小、口器（とくに大顎）、触角および肢の伸長など、地下生活に対するいちじるしい適応を示しているにもかかわらず、上翅の下に完全な後翅をそなえている。1981年の春に、東京都下の高雄山で地下浅層から発見され、顕著な新属新種として同年の夏に記載された (UÉNO, 1981)。この後翅はじゅうぶんに機能するものと思われたが、生息場所が地表から 60 cm ぐらいた下の地下浅層に限られていたので、実際にそれが使われるのかどうかはわからなかった。

ところが、翌 1982 年の 8 月になって、同じ高雄山の薬王院で、外燈の下を歩いている 1 個体が夜間に採集され、また、1985 年の 8 月には、赤石山脈南部の黒法師岳で、夜間に倒木の上を歩いている 1 個体が発見されて、この種が夏季には飛びまわるらしいということが、かなりの確度をもって推察できるようになった。そして、1987 年の 8 月、富士山北麓の精進湖で、夜間採集の幕に飛来した 1 個体がついに採集されて、繁殖期にはタカオチビゴミムシが地上へ出てきて飛翔するのだ、という事実が確認された (UÉNO, 1988)。

既知の採集地点は、関東山脈内部から富士山を経て赤石山脈の南部にいたる、本州中央部太平洋側の狭い範囲に限られていたが、1989 年の 9 月に、日本海側の富山県下で、この種であろうと思われる 1 個体が、ダムの堰堤に設けられた水銀燈の下で夜間に採集されたので、ここに記録しておく。

検視標本: 1 ♀, 富山県東砺波郡庄川町小牧, 小牧ダム (標高 180 m), 14-IX-1989, 高野 勉採集。

この個体は、太平洋側のものに比べて前胸部がやや狭く (PW/HW 値 1.32, PW/PL 値 1.11, EW/PW 値 1.82)、基方へあまり狭まらないので基縁の幅が広いが (PW/PB 値 1.28, PB/PA 値 1.26)、採集地点が、もっとも近い既知の産地からでも 170 km ほど北西へ離れているし、この程度の種内変異は広域分布種としてありうるものと考えられる。将来、雄の個体が発見されれば、同定がより確実なものになるだろう。

なお、DEUVE から上野への私信によれば、中国の山西省から記載された "*Agonotrechus*" *sinicola* DEUVE, 1989 は、タカオチビゴミムシ属のものかもしれない、ということである。もし、この見解が正しければ、分布の由来を解析するうえで、重要かつ興味深い事例になるものと思われる。

### 文 献

- DEUVE, Th., 1989. Carabidae et Trechidae nouveaux des collections entomologiques de la North-West Agricultural University de Yangling, Shaanxi (Coleoptera). *Entomotaxonomia*, 11: 227-235.
- UÉNO, S.-I., 1981. A remarkable new trechine beetle found in a superficial subterranean habitat near Tokyo, Central Japan. *J. speleol. Soc. Japan*, 6: 1-10.
- 上野俊一, 1985. オサムシ科 (マルクビゴミムシ亜科からチビゴミムシ亜科まで). 上野俊一ほか (編著), 原色日本甲虫図鑑, 2: 54-88. 保育社, 大阪.
- UÉNO, S.-I., 1988. Flight of *Paragonotrechus paradoxus* (Coleoptera, Trechinae). *Kontyû, Tokyo*, 56: 459-460.